

地域 × 栗山高校

生徒確保に向けて まち一体で行う支援活動

開校以来、最も少ない入学者数となった今春の栗山高校。定員80人に対し、倍率は0.3倍（昨年0.5倍）にあたる25人の1年生が入学しました。

町では、「栗山高校の維持・存続」を重要な町政課題とし、資格取得や模擬試験などの受験料補助や、入学準備支援金・部活動費の助成制度を拡充、国際交流事業「少年ジェット」の栗山高校の創設など、支援を行っています。

さらに、町民組織「北海道栗山高等学校魅力づくり委員会」を設置し、高校の在り方や特色ある教育課程の編成について提言を行うなど、魅力ある学校・選ばれる学校づくりに向けて、さまざまな施策を行ってき

ました。

また、平成18年より「北海道栗山高等学校を支える会（以下、支える会）」が北海道教育委員会（以下、道教委）に対し間口維持に向けた活動を行う他、今春始動した女子硬式野球同好会を応援する組織「栗山高校女子野球後援会」を設立するなど、町と町民が一体となった高校の支援体制が構築されています。



栗山高校女子野球後援会設立総会のようす

想いが伝わった要望活動 栗山高校の2学級維持が決定

昨年に引き続き1学年が1学級編制になったことを受け、8月23日、佐々木学町長から道教委へ普通科募集間口の2学級維持に関する要望書を提出しました。

佐々木町長から、現在、町が進める北海道介護福祉学校との連携による高・専一貫教育モデルの開発・実証事業の推進（次ページ後述）や女子硬式野球活動など、入学者増につなげる生徒確保対策について説明。また、同席した鶴川和彦栗山町議会議長、松原正和栗山商工会議所会頭（当時）

からも、それぞれの立場から栗山高校の必要性について、強く要請しました。

これまでの活動や要望を受けて、道教委の倉本博史教育長は「栗山高校が町民の皆さんに支えていただいていることに大変感謝します。本日の要望内容をしつかりと受け止め、高校設置者である道教委としても福祉をテーマにした教育活動の推進など、地域からの支援を土台にした学校づくりを進めていきたい」と話していました。

その後、道教委は9月6

日に令和5年度以降の高校配置計画と今後の見通しを示した公立高等学校配置計画を決定。多くの学校が、募集停止や統廃合、学級数減などの厳しい見通しとなる一方、栗山高校は2学級が維持されることになりました。

多くの町民の皆さんの高校存続にかける想いを取り組みが、実を結びました。



栗山高校については令和4年広報6月号でも紹介しています



支援制度を活用し、海外派遣を行う少年ジェット事業。今年度は2人の栗山生が参加します



多くの人に支えられながら活動している女子野球同好会。地域の活動にも積極的に参加しています（総合防災訓練）

栗高だけではない？ 近隣の高校の動向

栗山高校は2学級維持で決定されましたが、依然多くの高校で厳しい状況が続いています。近隣の空知南学区の一部の現状を紹介します。

◎南幌高校

すでに生徒募集を停止。今年度で閉校

◎長沼高校

一時期は1学級体制であったが、近年は学区外からの出願が多く、2学級制で運営

◎岩見沢東高校

令和7年度に岩見沢西高校と統合し、新設校を設置

◎岩見沢西高校

同上。統合後は、同校の校舎を使用予定

◎岩見沢緑陵高校

近年は学区内で定員以上の受験者が出願。学級数も今後1増の予定

【1】公立高等学校配置計画

高校進学希望者数に応じた定員を確保するため、中学校卒業生数の状況を踏まえ、学校・学科の配置や規模の適正化を図るための計画。道教委が作成し、毎年度、3年間の具体的な高校配置計画とその後4年間の見通しを公表する。



Profile

介護老人保健施設

ガーデンハウスくりやま

前事務長 **山岸 貴昭** さん

栗山町出身で栗山高校卒業生。今年10月まで介護老人保健施設「ガーデンハウスくりやま」の事務長として勤務。現在は札幌市の施設に転勤となったが、ふるさと栗山への想いから、現在も母校にエールを送っている。

長年、栗山町の福祉を支える「ガーデンハウスくりやま」



私が通っていた時と比べて生徒数は減少し、少子化や存続問題などが言われていますが、母校が福祉教育や女子野球など新たな取り組みを行う姿を大変嬉しく思います。そんな中で福祉に特化した教育を行うことは、人材不足といわれる福祉業界としても大変楽しみです。介護福祉の現場は、利用者さんの人生をどのようにプロデュースしていくかを医師、介護職、看護職、リハビリ職、ケアマネジャーなど、一

人ではなく、チーム全体で取り組む業界です。授業では技術的なことも学ぶかと思いますが、学校の仲間同士で考え、取り組む姿勢や繋がりの大切さを学んでほしいと思います。私は、長年栗山町の多くの人の温かさにお世話になってきました。そんな温かみのあるまちで福祉を学ぶことで、今後の生活や社会に即した考え方を身につける貴重な時間を過ごして欲しいなと思います。

人の温かさを感じながら学びを

福祉を学んで社会で生きる経験に



栗山高校 教頭 煙山 訓さん

これまで栗山町の皆さんには多く支援やご提言をいただき、大変感謝しています。その答えとなるような形で、栗山高校は福祉教育に特化した学校づくりを進めていきます。

福祉教育は、日本が抱える少子高齢化などの問題にも関連するテーマです。その基礎的な部分を学ぶことは、社会に出た時ないしは介護の場面で、栗山高校で得た知識・経験が生きてくると思っています。今後も地域から信頼され、選ばれる学校づくりを進めていきたいと思っています。

町では、北海道介護福祉学校を事業主体とする介護分野の中核を担う人材養成に向けた新たな高・専一貫教育プログラムの開発事業が進められています。今回「文部科学省委託事業」「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」として全国で唯一採択されました。これを受け、栗山高校は学校の魅力を高める取り組みとして町と連携し、福祉のまちづくりを

学ぶ教育活動の実現に向け新科目「栗山と福祉」の教育課程の改編作業を進めています。この取り組みは地域独自の教育資源を活用した活動で道教委からも認められ、次年度より道外からの出願が可能となりました。今後、産学官による連携組織「魅力化コンソーシアム」を構築し、学校・行政、そして産業界が連携し、福祉・介護の充実を目指します。



これまでも栗山高校との連携事業を行ってきた介護福祉学校



Interview 栗っ子たちの声

町からの支援制度を活用している栗高生と、栗高卒業生の介護学生のお二人に話を聞きました。

栗高枠を利用してオーストラリアへ

来年1月に行われる少年ジェット事業の栗高枠制度を利用して、オーストラリアに行ってきます。これまで高校や町教育委員会、ALTのスタッフさんにお世話になりながら、楽しく活動しています。今は事前研修などで英語の勉強や団員達との交流を深めています。小さいころから海外に興味があり、研修で海外の文化をたくさん学んで帰ってきたいと思っています。



栗山高校2年 原田 涼花さん
(栗山中学校卒業)

高校から福祉を学ぶこと

高校生のときに参加した進学説明会をきっかけに、介護学校への入学を決めました。その数年後に母校が福祉に特化した取り組みを行うと聞いて、うらやましい限りです。介護を学ぶことは、苦労もありますが、利用者さんや仲間たちとの関わりや実習など、やりがいがあります。これから入学する多くの栗高生にも福祉の魅力を感じて貰いたいと思います。



介護福祉学校1年 土門 萌笑さん
(栗山高校卒業)

取材を終えて

栗山町は「福祉のまちづくり」に長年取り組んでおり、昭和63年には北海道介護福祉学校の開校、令和3年のケアラー支援条例の制定など「栗山町ならではの福祉の環境」をつくってきました。

近年、社会全体では介護人材不足や地域でのコミュニティの希薄化が課題として挙げられており、栗山町も例外ではありません。広報10月号「介護福祉学校特集」でも触れましたが、変化し続ける地域を支え、安心して暮らすためには、介護サービスの充実はもちろん、住民が共に支えあう意識が必要と考えます。

来年度から栗山高校が行う取り組みは、その課題解決の一端を担うものです。「高・専一貫教育プログラム」の「開発事業」は、地域で

の介護人材養成に向けたキャリアを形成することにより、介護人材不足の解決だけでなく、生徒たちへ福祉教育を通して身に付けられる豊かな人間性を育むことがねらいです。これは栗山高校が福祉・介護を専門で学ぶ学校として変革するのではなく、これまで栗山町が進めてきた福祉の環境を活かした「栗山町ならではの教育」を行うものです。身近にある福祉・介護の課題に触れ、地域を見る。将来を見据えた共生社会の視点を養うこと。仮に福祉関係の仕事に従事せずともこの教育活動で学んだ経験は将来生きていく上での糧となるでしょう。

多くの町民の皆さんに支えられ、地域に根差した学校としてあり続ける栗山高校。近い将来、より多くの栗高生の活躍を楽しみにしています。